

## 図書館デザイン会議 第三回要点録

### 1. 第一回・第二回の振り返り(図書館長 横倉)

#### 第一回・第二回の報告参照

### 2. 今後に向けて(図書館長 横倉)

#### 投影資料:「デザイン会議第三回投影資料」参照

- ・図書館デザイン会議終了後、広く市民に企画を募集し、実施する企画についても市民とともに決めていきたい。来週中には図書館デザイン会議の参加者だけでなく、広く市民に企画募集を行い、募集要項や企画書(様式)を図書館HP上で公開を予定。
- ・今後の流れについて、1周年記念の企画実現までの仕組みは図書館が試行としてスケジュールを考えたので、この流れで進めたい。
- ・令和6年4月13日(土)10:00~12:00 実施企画決定会議を行い、まずはその日に出席したメンバーで7月から12月までのイベントについて決定行為を行いたい。実施企画や実施時期の決定方法、一緒にやりたい人をどう集めるかなどを市民が中心となり、図書館とともに決めていきたい。
- ・1周年記念イベント終了後、9月に振り返り会議を開催し、その後の進め方について市民とともに決めたい。

### 3. 第二回アンカンファレンス議題再確認(岡本氏)

#### 第二回の報告参照

### 4. 企画書を書いてみよう

- ・この図書館を使って企画を行うということは、税金を投入すること。  
この場にはいない多くの多摩市民の税金を使うためには、説明や広報が必要になる。
- ・誰が何のためにどう決定したか?を文章にして残すことが重要。
- ・実現が難しいかもしれないとあきらめるのではなく、「できたらいいな」で考えること。  
前回までは企画を広げる方向だったが、十分広げたら折りたたみ企画書に落とし込む作業を行う。
- ・企画書は、どうしたら企画者の思いをくみ取れるか、どうしたら企画者がやりたいことが多くの人に支持されるか、を理解してもらうためのもの。できるだけ具体的に全てを埋める。特に「ターゲット」「参加者がこのイベントで得られるもの」を重視すること。

- ・ターゲットを絞ることで企画が具体的になる。その企画に適切な曜日、時間があるはず。
- ・振るわないイベントは、企画者の思いだけが先走っていることが多い。  
企画者がそのイベントを誰よりも知っているはずなので、一般の人、素人が見て分かるか？魅力が伝わるか？という視点を持つこと。

## 5. 他の方の企画書を見てみよう

- ・普段自分が接していない人や、自分の企画でのターゲット層と企画書を見せ合う。
- ・いい企画書は多くの目が通っている企画書。人に見せられない企画はその時点でダメ。
- ・他の人が見たときに、何が魅力なのかが分かる企画書を目指すこと。

## 6. 企画をつくるためのポイント（岡本氏）

- ①自分がやりたいことを実現しようと思ったら、仲間を増やすこと。
  - ・仲間がいないものは企画にならない。
  - ・同じ属性の仲間だけでなく、縁もゆかりもない人、知らない人を仲間として増やしていくこと。
  - ・知り合いだから共感してくれる、は義理人情。知らない人が来る方が企画は広がる。
  - ・共感を呼べない企画は失敗する。
  - ・自分の話を聴いてほしいときは、まず人の話を聴くこと。  
聴いていればいつか自分が話せるターンが増える。→仲間が増えるきっかけになる。
- ②諦めないこと
  - ・1周年記念イベントの企画として選ばれなくても、1度きりで考えるのではなく、次のチャンスを考える。
  - ・一度実現できなくても、どうしたら次は実現できるか？を考えること。
  - ・ラストマンスタンディング：最後まで立っている方が勝ち。  
企画者が諦めた瞬間に企画が終わる。
  - ・諦めず言い続けることで、順番が回ってくることもある。
  - ・自分が絶対にこれがいいということは諦めずにこだわること。
- ③「してほしい」は使わないこと
  - ・人は生まれながらにして平等。一人ひとりの意志が尊重される。
  - ・「やりたい」を強く言い続けること。「やってほしい」を言っているうちは実現しない。
  - ・実現したいことは自分の手で実現する。自分の手だけで実現できない場合は仲間を増やす。
  - ・いいパーティー（※）を作ることを目指す。  
※ロールプレイングゲームなどで、特定の場所を目指すために集まったグループの

ようなもの

○お金の話

- ・活動のお金をどうするか迷ったら、いきなり税金を投入するのではなくまず自分でできることを考えること。クラウドファンディングなど様々な選択肢がある。

## 7. 全体を通しての意見・感想（意見まとめ：図書館）

参加者 1

分業制で本を作りたい。

参加者 2

図書館の資料がどう選ばれているかを透明化してほしい。

職員がどういうことを選書に活かしているか、多摩市民が選書に対して求めているニーズをどうキャッチしているかなどを市民と一緒に話せるイベントをしたい。

それによって職員の専門性が深まるような継続的なイベントを提案したい。

参加者 3

まずは若い世代が来ているということに感謝したい。高校生のみなさんは、学校に戻ったら同世代の人たちに面白かったことなどを伝えてほしい。

また、若い司書がこういった企画をできるようになっているということも良いことだと感じる。図書館司書は楽しんでできる仕事なので、この先の企画募集なども引き続き頑張ってもらいたい。

学校図書館がこれから大事。小～高校生を中心に、様々な企画ができればいいなと思っている。

岡本さんより

- ・複数人で一緒に企画をやる際は誰かが旗を立てることが重要。得意を活かしてパーティーを作ることも大事。
- ・中央図書館ができたときの思いを書いた冊子や本を作ることも今後のために重要。
- ・市の職員を大事にしてほしい。当りの強い市民を止められるのは同じ立場の市民だけ。職員、図書館を育てているのは市民自身。図書館と市民のレベルはリンクする。
- ・図書館に対して、批判的に「できていない」と言うのではなく、どうしたらできるようになるか一緒に考える文化を作ってほしい。足りないものを見るのではなく、足りている部分を見たらうで、もっとより良くなるためにはお互いになにができるかを考えていくこと。